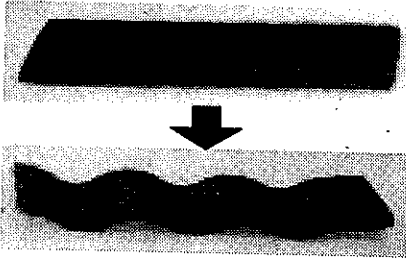


常識覆す熱可塑性工ポキシ開発

長瀬産業子会社、1トを2割程度、上回って高機能樹脂を手がけるナガセケムテックス(毛利充邦社長、大阪市西区)は、熱可塑性樹脂を開発した。写真。繊維強化プラスチック(FRP)へ応用することで、炭素繊維複合材など成形品の二次成型や、溶剤浸漬による強化繊維のリサイクルが可能になる。従来の常識を覆す画期的な樹脂で、高強度な複合材を用いた部品の生産性が大幅に向上できる可能性がある。



高強度複合材を用いた部品の生産性大幅向上

熱硬化性樹脂は、熱を加えると硬くなる特徴を持つ。エポキシはその代表格。熱可塑性樹脂と異なり原料が液状であるため、成型が容易で特別な設備が必要ない。また成形品の分子構造が網目状であるが強度が低下しないよう、分子を長大につなげ高分子化した。その結果、耐衝撃性はこれに優れるポリカーボネ

エポキシの原料分子を直線方向にのみつなげる工夫を行い、熱可塑性を持たせることに成功した。通常は分子が網目状につながり、分子構造が強固になる。構造が非網目状であるが強度が低下しないよう、分子を長大につなげ高分子化した。その結果、耐衝撃性はこれに優れるポリカーボネ

エポキシの原料分子を直線方向にのみつなげる工夫を行い、熱可塑性を持たせることに成功した。通常は分子が網目状につながり、分子構造が強固になる。構造が非網目状であるが強度が低下しないよう、分子を長大につなげ高分子化した。その結果、耐衝撃性はこれに優れるポリカーボネ

エポキシの原料分子を直線方向にのみつなげる工夫を行い、熱可塑性を持たせることに成功した。通常は分子が網目状につながり、分子構造が強固になる。構造が非網目状であるが強度が低下しないよう、分子を長大につなげ高分子化した。その結果、耐衝撃性はこれに優れるポリカーボネ

ストの大幅削減につながることもできる。個人差を要求されるスポーツ・医療用品への適用も視野に入れる。また、同エポキシは、添加剤を加えることで、複数の熱可塑性樹脂の特性に似せることも可能という。

熱可塑性樹脂は、熱を柔らかくする特徴を持つ。ポリエチレンやABS、ナイロンなどが代表。固体のペレットを高温で溶かし、型に流し入れて冷却することで成型する。成型品の二次成型が可能で、再加熱することで溶融する。溶剤による溶解も可能。ただ成型工程には樹脂を高温にする特別な設備が必要になる。

<http://www.attt.jp/>

チャンス創造するコンベンション開催!!

インフラと通信インフラに関わる幅広い業界で新しいビジネスの潮流を生み出します!

業界の関係者が一堂に集います!
システム、アプリケーションやソリューション、サービス提供まで様々なレイヤーで構築されている「自動車の通信」に業界の関係者が一堂に集う日本初のコンベンションです。

ビジネスやサービスを生み出す場として
技術的な提案に偏らず、新しいビジネスやサービスを生み出すための情報交流を促進していきます。カンファレンスやアワードなど併催企画等もビジネスを主軸に、わかりやすいテーマ構成で展開します。